

Campus キャンパストピックス Topics

大 学

なぎなた部 藤田智也さん、全日本学生なぎなた選手権大会 個人の部優勝 団体の部でも2位、なぎなた部男子が健闘



個人の部で優勝した藤田智也さん(右)と団体の部でチームメイトの健康医療科学部1年杉浦陽さん(左)



個人決勝戦の様子(左)藤田さん

なぎなた部の藤田智也さん(心理学部4年)が、8月10日に行われた第53回全日本学生なぎなた選手権大会、男子個人試合の部において優勝しました。

藤田さんは、先に行われた男子団体の部において、1年生の後輩と惜しくも2位となり優勝を逃しました。その悔しさを胸に、その後に行われた個人の部では、団体の部決勝で敗れた相手とのリベンジ対決で見事一本を取って、初の全国制覇となりました。

藤田さんはすでに全日本の強化指定選手になっていますが、「来年カナダで開催される予定の世界なぎなた選手権大会の日本代表選手に選ばれるようこれまで以上に自己研

名古屋市教育委員会との相互連携協定に関する調印式



5月15日、名古屋市教育委員会教育長の下田一幸氏、教育次長の西淵茂男氏、生涯学習部長の津坂昌樹氏、生涯学習課長の百合草和善氏、社会教育係長の谷藤洋久氏をお迎えし、名古屋市教育委員会と愛知淑徳大学との相互連携協定に関する調印式を開催しました。学内にて式を執り行い、下田一幸教育長と島田修三学長との間で調印が交わされました。

教員を志望する多くの学生が『なごや教師養成塾』に意欲的に参加するだけでなく、名古屋市公立学校教員採用試験にも挑戦しています。地域と協働する大学づくりを進めている本学として、名古屋市教育委員会との連携を強めることは、教育現場での体験学習やボランティア活動の活性化、教員養成の新たな道筋・取り組みの創出などにつながるはずです。そして、名古屋市の学校教育がさらに発展し、子どもたちの可能性が大きく広がるよう、今回の連携協定の締結を活かしていきたいものです。

大治町との連携協力に関する協定調印式



名古屋市の西隣に位置する、海部郡大治町。本学文学部教育学科の学校教育体験にご協力いただき、町内の小学校に学生を受け入れていただくなど、教育分野における交流があります。そのつながりをより強固なものにするために、8月22日、大治町役場にて連携協力に関する協定調印式が開催されました。

調印は、村上昌生町長と島田修三学長の間で交わされました。式の後には、公民館やスポーツセンター、史跡などの町内各所へ。島田修三学長をはじめ参加した教職員は大治町職員の方々と親睦を深めるとともに、町の魅力を再認識しました。

今後、大治町と本学は、学校教育だけでなく、まちづくり、生涯学習、文化振興、スポーツ振興、地域防災など、幅広い分野での連携を進めていきます。その最前線で、学生が町民の方々と協力して地域活性化や課題解決に取り組む、社会人へと成長してほしいと願っています。

Campus キャンパストピックス Topics

大 学

第2回オープンキャンパスに4,483人が来場

7月26・27日、「第2回オープンキャンパス」を長久手・星が丘両キャンパスにて開催しました。連日気温が30度を超える真夏日で時間によっては小雨がぱらつく天候にもかかわらず、多くの高校生や保護者の方々が訪れ、両日合わせて4,483人の来場者数となりました（保護者など付添者は除く）。

第2回オープンキャンパスのみで開催される「模擬授業」は自分の興味のある学部・学科などの講義を1日4つまで自由に受講できるとあって毎年人気の企画。その人気は今年も変わらず、満席となった講義もありました。参加した高校生からは「想像していたよりも面白かった」「志望する学科のイメージがより明確になった」など前向きな声が聞けました。

また、公募制推薦入試対策講座（国語・英語・小論文）を両キャンパスで実施。各科目の攻略ポイントや効果的な受験勉強の方法などを本学教員がレジュメや過去問題を用いながらわかりやすく解説しました。説明を一言も聞き逃すまいと熱心に耳を傾け、必死にメモを取る受講生の姿が多く見受けられました。

さらに、第1回オープンキャンパスに引き続き、在学生である学生スタッフとフリートークができる「淑トーク」を両キャンパスで開催。クラブ活動や大学での日々の学びなどさまざまな事を先輩に聞けるとあって、目を輝かせて質問をしている参加者の様子が印象的でした。

また、大型スクリーンを使って大学の学びを解説する「学部・学科（専攻）説明」や入試方法などについて解説する「入試説明」、学部（専攻）・入試・教職・学生生活・就職・留学などに関して教員や担当スタッフに直接質問することができ「相談コーナー」、学生スタッフが学内の専門施設を案内する「キャンパスツアー」、各学部・学科による趣向を凝らした「特別企画」なども好評でした。

さまざまな企画内容で、愛知淑徳大学の学びを体感できた2日間。来場した皆さんは、充実した一日を過ごし、第2回オープンキャンパスを満喫していたようです。



2013年度留学生別科修了式

5月19日、2013年度留学生別科修了式が国際交流会館（アイハウス）にて挙行されました。8か国14人の修了生が本学での留学生生活の思い出を胸に式に臨み、島田学長からそれぞれに修了証書が授与されました。

修了生を代表し、ブラジル出身で文部科学省の国費外国人留学生として学んでいたChristine Akemi Sako クリスチネ アケミ・サコウさんが「日本での留学生生活を支えてくれた別科教員、友人、国際交流センタースタッフへの謝辞を日本語で述べました。Akemiさんは「日本に来たばかりの時は、みんなの写真を見ても何も情報がなかったけれど、今みんなの写真を見るとたくさんのストーリーがあります。」と留学生別科で出会った仲間への思いと日本語学習の成果などについて、ひと言ひと言かみしめながらスピーチしました。

島田学長からは本学留学生別科で学んだことを活かして、帰国後も日本と母国の友好の架け橋になって欲しいと、修了生の今後の活躍に期待を込めお祝いの言葉が贈られました。

修了生たちは母国の大学・大学院に戻り学業を継続する者、就職する者など、それぞれに新しい目標に向かって歩み始めています。



自分たちのアタマで考えた設計が、実際の空間になる。 「内藤廣展 アタマの現場」

毎夏、著名な建築家の展覧会を誘致し、学生の手で展覧会場を設計・施工（実際につくる事）する授業「デザインワークショップ」は、建築系の大学としては全国でも珍しい取り組みで、設計を志す学生にとって貴重な経験の場となっています。

今年度のプログラムは和菓子店の老舗「こらや」、絵本作家いわさきちひろの美術館などの設計で知られる建築家、内藤廣氏による「内藤廣展 アタマの現場」展。内容は氏が現在進行中のプロジェクトに対してどんな事を考え設計を進めているのか、そのアタマの中が垣間見えるというもので、7月26日から8月10日にかけて16日間開催されました。

会場計画には、目新しさや単純な格好良さではなく、（一見普通に見えたとしても）実際に体験した時の豊かさが求められたため、学生達にとっては中々の難題だったようです。

最初は内心、自分達の設計に対して「こんな地味じゃつまらないよ」と思っていた学生も、出来る上るとその居心地の良さに驚いたようで、自家製巨大ソファに皆でゴロゴロ……。さらに7月30日には講演会のためお越し頂いた内藤氏から「学生さんのつくってくれた会場が素晴らしいから」と用意していた原稿ではなく、その日だけのスペシャルな内容で講演いただくというご褒美もあり、学生達は設計がアタマの中「だけ」のものではないと実感できたようでした。



Campus キャンパストピックス Topics

中学校・高等学校

高校1年生、毎年恒例「思索と対話の春合宿」へ



2009年に始まった「思索と対話の春合宿」。今年も4月13～15日に岐阜県庄川にて行いました。日常から離れた静かな環境で、生まれてからの15年間の振り返り、高校生になった現在の自分をじっくりと見つめ、将来へと思いを馳せるための合宿です。

「からだからこころへ」からだをリラックスさせると、不思議と心もリラックス。自分のからだだと心を大切にすることを学びました。

「思索の時間」資料集を読んで印象に残ったテーマについて、そして自身の問題意識でテーマを立てて「思索」を行いました。それぞれの問題意識も高く、大切なテーマについて深く踏み込んで思索を行いました。

「卒業生との対話の時間」大学在学中の卒業生が7人参加し、高校時代の学園祭・クラブ活動・生徒会活動などを通して得られたこと、進路選択の悩み、受験を乗り越えた苦労と仲間の大切さ、現在学んでいることなどについて対話をし、生徒たちは大いに刺激を受けていました。

「対話の時間」友人の普段聞けない真剣な考えを聞くことができ、学園祭を通していいクラスにしたいこうと充実した対話の時間となりました。

この合宿をきっかけに自分自身の考えを深め、学び合い、励まし合って、目標に向かって進んでほしいと願っています。

北アルプスへ4泊5日の夏山登山に



今年の夏山登山は、7月28日～8月1日の4泊5日で、北アルプスの薬師岳に39人で登ってきました。1日目は移動日で、途中称名滝を見学し、宿泊地に到着しました。本格的な登山は2日目からで、地元立山ガイドの佐伯知彦さんと川尻耕治さんの案内で、折立から入山し、太郎平小屋に到着しました。高山植物やトンボの大群など北アルプスの自然を楽しみながら、太郎平小屋に到着しました。太郎平小屋では、山小屋の生活を楽しみ、夜には見事な星空を眺めることができました。今年には新人の地学担当教員からの詳しい説明もあり、本格的な天体観察ができました。3日目は、薬師岳を目指しました。この日は5日間で最もよい天気、全員薬師岳登山頂をはたしました。山頂からは360度の北アルプスの大パノラマを楽しみ、雷鳥にも出会うことができました。4日目は、午後から荒天が予想されたので、北ノ俣岳に登らず、太郎平から折立へ下山しました。5日目は、白川郷を見学し、無事名古屋に戻ることができました。

2014年度 理科研修旅行



理科研修旅行が8月4～7日の日程で実施され、生徒（中学生・高校生）73人の参加がありました。東海北陸4県での研修で、行程内の企画はどれも観察・実験・フィールドワークを重視した内容にしました。生徒たちにとって、科学者たちの考え方に触れ、自分自身の進路を考えるよい機会になったことは間違いありません。また、今回の研修は、実習を充実させるものにするため事前学習にも力を入れました。東京大学大学院生態学・環境学研究所長の蔵治光一郎先生による講演や、自然科学機構核融合科学研究所の永岡賢一氏による講演は、最先端の科学を垣間みるよい機会となりました。生徒たちは問題意識を強く持つて研修に臨むことができました。研修旅行3日目、石川県能美市では、金沢高校の四ヶ浦弘先生による実験を交えた講義「金と銀の不思議を探る」を受講しました。その後に行われた犀川での砂金採集では、持参したボールをパンニング皿として使って、根気よく宝探し。採取できた生徒もできなかった生徒もよい思い出ができたことでしょう。最終日には金沢大学を訪れ、生徒たちにとつてはじめての経験となる大学の研究室を訪問しました。大学で学ぶことの意義を深く考えることができたものと期待します。

5日間の中国訪問を終えて



8月21～25日の日程で愛知淑徳中学校高等学校の訪中団として、8人の生徒達と教員2人で南京第一中学校を訪れました。初の試みということで心配な面もありましたが、南京一の先生方、生徒のみなさんの温かい歓迎を受けながら、とても充実した日々を過ごすことができました。

南京一中に到着すると、7月に本校に来日した時に愛知淑徳の生徒がプレゼントした学園祭Tシャツを着て、歓迎してくれました。大切に持っていてくれたと思うと胸がとても温かくなり、生徒達も緊張がほぐれたように感じました。南京一中は全国の模範とされる名門校であり、校舎見学では屋上にあるプラネタリウムに案内されました。生徒達はクラブ活動で天体の研究を行っているそうです。

本校の生徒達は、南京一中の生徒宅にホームステイをし、異文化に触れながら多くのことを学んだようです。一緒に水餃子を作ったり、遊園地へ行ったり、お揃いのものを買ったりしたようで、大変満足していました。

この機会を通じて、南京一中と愛知淑徳との交友関係を更に深めていけるよう、これからも尽力していきたいと思えます。

Campus キャンパストピックス Topics

中学校・高等学校

中学2年生、恒例の林間研修を高山で



今年もまた5月12～15日まで二班に分かれ、2泊3日で飛騨林間研修を行いました。

短時日の中に、ミニ登山、民宿での食体験、夜間ハイキング、田植え体験、キャンプファイヤー、家族への手紙、高山市中散策などたくさんの行事が盛り込まれており、いさゝかせわしない行程でありますけれど、事前の生徒たちによる計画と準備は抜かりなく、驚くほどスムーズに、かつ、充実して終了しました。

生徒たちにとって楽しい宿泊行事であります。その目的である新学年の新しいクラスメイトとの交流と、日常では接する機会のない人々との出会いと自然体験とを、それと意識せずともしつかり味わったことと思われまふ。

直後に定期考査があること、授業時間確保など、目先の様々な理由でなかなか理想的にはまいりません。

本校の行事は盛りだくさんですが、それぞれが目先の、もしくは直後にその成果をもたらすものではなく、生徒たちの遠い未来を豊かにする、無形の宝物となっていくことを望んでなりません。

約2,400人もの来場者、オープンスクール



6月7日に、中学校オープンスクールを開催しました。今年は、昨年を上回る約2400人の方々が来校されました。前日の雨の影響で一部の体験は実施できませんでしたが、教室・実験室・グラウンド等では、約30のミニ体験授業やクラブ、同好会による活動披露・体験が行われました。熱心な体験や授業体験に取り組んだり、在校生とともにクラブ体験に参加したりと、参加者の満足度は高かったようです。大アリーナでの第1回目の説明会は、会場に入りきれず移動をお願いする状態になりました。内容としては、生徒発表ではじまり、学校紹介ビデオ「淑徳わたしの6年」を上映しました。校長・副校長からは、本校教育の概要と入試の説明を行いました。

本校のオープンスクールは、中学3年生を中心とした生徒の参加によって成り立っています。今年度も700人以上の生徒が、授業補助やクラブ体験、受付や案内などを行いました。生徒の明るく、親切的な対応が、多くの来場者から好感を得ました。

来年のオープンスクールは、6月6日を予定しています。ぜひご参加ください。

2014愛知岐阜私立中学校進学フェア開催

本年度より、岐阜地域の私学も参加することになった「愛知岐阜私立中学校進学フェア」は、本校を含む愛知・岐阜県内の私立中学校26校（4校は資料参加）が参加して、7月26、27日の2日間、名古屋駅のウイングあいちで行われました。

入場者は5370人（26日2579人、27日2791人）と昨年を僅かに下回りましたが、来場者の熱気は例年通りで、各校のブースには入試や校風について熱心に相談する保護者や受験生がひっきりなしに訪れ、志望校について少しでも多くを知りたい生徒や父母の姿をあちこちで見ることができました。本校のブースも終日来場者でにぎわい、二日間152組の生徒や父母が訪れて、「入試の合格ラインはどれくらいですか」「生徒に人気のあるクラブ活動は何ですか」など、熱心に質問していました。



会場の中央には全参加校の制服が展示され、目当ての中学の制服と並んで写真を撮る姿も数多く見られました。さらに今年は、新たに「制服試着コーナー」が設けられ、志望校の制服を着て写真を撮る企画では、本校の制服はすぐに予約がいっぱいになるほどの人気でした。各ブースでの入試相談に加え、中学ごとのプレゼンテーションがありました。今年度は本校生徒会執行部の4人の生徒たちが、クイズ形式で楽しく分かりやすい説明をしてくれました。会場では学校紹介の映像も大きなモニターテレビで流されていて、個別相談会とあわせて私立中学校を知っていただくよい機会になりました。

受験を控えた6年生ばかりでなく、5年生以下の児童や保護者の方の参加も多く、本校に関しては、完全高一貫体制のカリキュラムに対する期待や高校での進路指導、補習授業についての質問、カフェテリア等校内の施設についての質問等が多くあり、愛知淑徳の教育に対する期待と関心の高さをあらためて感じさせられた1日間でした。

イングリッシュ・セミナーで英語に触れ合う3日間



すっかり恒例の行事となったイングリッシュ・セミナー（イングリッシュ・サマーカーン）が8月17～19日までの3日間、長野県の本智駒高原で行われ、中学2・3年生と高校1年生の合計50人が参加しました。学校の授業で英語に触れていても、なかなか実際に使う場面は少ないのですが、この3日間は英語をフル活用です。まだまだ拙い英語の生徒もいましたが、積極的にがんばっている様子が印象的でした。プログラムでは、歓迎のセレモニー、自己紹介と続いた後に英語のゲームをしたり、屋外のレクリエーションをしたりしてコミュニケーションを楽しみ、ダンスパーティーやアメリカン・カーニバル夜にはキャンプファイヤーなど外国の文化にも触れる機会もあり、充実した内容でした。最終日には集大成として、グループごとに作った英語の劇を上演したり、マイ・ストーリーといわれる自己紹介の発表をしたりして、大きな達成感を得ることができました。来年度も実施予定ですので、多くの参加を期待しています。